

学校 教育 目標	「みんなで認め合い、学び合い、やりぬく本牧の子」				
	○しっかり聞き、しっかり話し、主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育てます。(知) ○自分を大切にし、人を思いやる優しさを育みます。(徳) ○運動やスポーツに積極的に取り組み、心身ともにたくましく生きる力を育みます。(体) ○本牧、横浜を愛し、自分の役割や働くことに積極的に取り組む態度を培います。(公) ○多様性を尊重し、心を開き、進んでコミュニケーションがとれる力を育てます。(開)				
学校 概要	創立 27 周年	学校長 田中 昌彦	副校長 川又 美貴子	2 学期制	一般学級: 14 個別支援学級: 2
児童生徒数: 476 人	主な関係校: 大鳥中学校、本牧中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大鳥中・本牧中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
問題発見・解決能力 言語能力 自分づくりに関する力	大鳥中学校 本牧中学校 大鳥小学校 間門小学校 本牧南小学校 本牧小学校	ふるさと本牧を担う子ども  ----- ・本牧のまちとかかわる学習を展開する。また、まちの行事への参加を促す。 ・全教育活動の中で、多様性を尊重し、誰とでもコミュニケーションを図ろうとする場を設定する。

中期 取組 目標	○子どもたちが、「自分大好き、友達大好き、本牧小大好き」と思う学校づくりを目指します。 ・子ども一人ひとりに寄り添い、子どもたち全員を全職員でかわり、よさやもっている力を引き出します。 ・どの子も主体的に学び、「全員参加」の授業づくりをします。また、授業を通して、自己肯定感を高めます。 ・人とのつながりを大切に、やさしい心、感謝の気持ちを育てます。また、あいさつや礼儀正しい態度を培います。 ・健康な心身をつくるための生活習慣が身に付くようにします。 ・「まちの学校」として、子どもたちが地域とかかわる活動を行い、まちを愛する心を育てます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
<b>豊かな心</b>	①全学級において、多様性を尊重し、よさを認め合う機会をつくる。②全学級において、間違いや失敗をしても大丈夫という温かい風土をつくる。③たてわり活動を通して、上学年が下学年の憧れとなるまじめな態度や思いやりの心を育てる。
担当 道徳部・人権委員会	
<b>生きて働く知</b>	①全学級で、聞き方や話し方などの学習ルールを徹底する。②算数科を核として、授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。特に、児童の実態に応じて主体的に取り組む「教材へのしかけ」と「手立て」を工夫する。③思考力を育むために、問い返しの発問を吟味する。④教育課程を作成する。
担当 研究推進委員会	
<b>健やかな体</b>	①保健学習や保健指導を主として、自身の健康への関心を高める。②体育科学習の充実を図る。また、外遊びを励行し、運動に親しむ態度を育てる。③子どもたちの発育段階に応じて食育を推進し、栄養バランスよく食べようとする意識の向上と感謝の気持ちを育む。
担当 体育部・保健部・食育部	
<b>特別支援教育</b>	①特別支援教育の視点で子どもたちを捉え、指導するポイントを全職員が学ぶ。②特別支援教育コーディネーターと児童支援専任を中心とした校内支援体制を構築する。③個別の支援計画、指導計画をもとに、学校と家庭との連携を図り、特別支援コーディネーターと関係職員が随時面談を行う。
担当 特別支援教育委員会	
<b>児童指導</b>	①全職員が、「子どもたち全員を全職員で育てる」意識をもってかかわる。②全職員が学校のきまりを共通理解し、学年に応じた指導を行う。③毎日の学校生活において、凡事徹底と社会ルールの習得を図る。④事案に対して、児童支援専任を中心にチームで迅速に対応する。
担当 児童指導委員会	
<b>地域連携</b>	①生活科や横浜の時間などで、地域とかかわる学習を行ったり、地域行事に参加したりし、まちへの愛着を強める。②教育活動に保護者・地域の方の参画を進める。また、地地域からの要望に可能な限り応える。
担当 教務部	
<b>安全管理</b>	①子どもが様々な災害に自ら対応できるように、起こり得る場面を想定した避難訓練を実施する。②担任、養護教諭、食育担当、調理員、家庭が連携し、アレルギーに対応した複合的なチェックを確実に実行する。また、4月に全職員がアレルギーに対する知識と対処法を学ぶ。
担当 災害対策部・保健部・食育部	
<b>いじめへの対応</b>	①月1回以上いじめ防止対策委員会を実施し、未然防止、案件の確認と再発防止に努める。②子どもたちへのアンケートを2回実施し、実態把握を丁寧に行う。③気になることが生じたときに、児童支援専任を中心として素早くチームで対応することを日頃から行い、習慣化する。
担当 いじめ防止対策委員会	
<b>人材育成・ 組織運営 (働き方改革)</b>	①年8回メンターチームでの研修を実施し、経験の浅い教員の指導力向上を図るとともに、助言者となるミドルリーダーの育成も行う。②誰もが、気兼ねなく質問したり、気付いたことを指摘したりしながら、職員相互で高め合う文化をつくる。③教科担任制や副担任制を導入し、時間的ゆとりを生み出し、働く方改革につなげる。
担当 教務部・メンターチーム	